

AMDA 年次報告書 2025年度

2025.4.1 ~ 2026.3.31

国連経済社会理事会総合協議資格NGO
特定非営利活動法人アムダ（AMDA）



巻頭に寄せて



特定非営利活動法人アムダ
理事長 佐藤 拓史

平素より、AMDAの活動を温かく支え見守ってくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。

国内外を問わず、災害や紛争、貧困などによって命や暮らしが脅かされ、支援を必要としている人々が今もいます。その一人ひとりに思いを寄せ、「救える命があればどこまでも」というモットーを胸に、AMDAは2025年度も支援活動に取り組んでまいりました。

ミャンマー大地震の被災者支援をはじめ、フィリピンでの洪水・地震・台風への緊急対応、インドネシア豪雨やスリランカでの被災者支援、そしてウクライナやハイチにおける人道支援など、さまざまな現場で予測を超える出来事に直面する中でも、現地の人々や関係機関と力を合わせ、本当に必要な支援を届けることができました。

さらに、インドやネパール、ルワンダでは地域に根ざした母子保健・学校保健活動を継続し、モンゴルやネパールでは内視鏡技術移転を通じた医療人材の育成に取り組んでまいりました。また、次世代を担う学生を対象とした教育活動にも力を注ぎ、人と地域の未来を支える活動を進めてまいりました。

一方で、東日本大震災の被災地で続けてきた復興支援活動は、震災から15年という節目を迎え、本年度をもって一つの区切りとなりました。被災された方々と共に歩んだ年月は、私たちにとっても多くの学びと絆をもたらしてくれました。長きにわたり活動を支えてくださった地域の皆様、関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

こうした活動の一つひとつは、会員の皆様、ご寄付をお寄せくださる皆様、ボランティアの皆様、企業・団体の皆様、そして私たちの活動に共感し応援してくださるすべての皆様の存在によって支えられています。支援が届いたときに見せる安堵の表情、困難の中でも未来を信じて前へ進もうとする人々の姿。その一つひとつに触れるたび、皆様のご支援が人々の命と希望を支え、地域に確かな変化を生み出していることを実感しています。

この年次報告書では、2025年度にAMDAが取り組んだ活動をご紹介します。紙面を通じて、皆様のお気持ちがどのように人々や地域の力となったのか、その歩みを感じていただければ幸いです。

AMDAは創立40周年を超え、新たな歩みを進めています。世界の状況がどれほど複雑になろうとも、必要とされる場所へ駆けつけるという私たちの使命は変わることはありません。これからも、多様な人々や地域とのつながりを大切にしながら、医療を軸とした人道支援に誠実に取り組んでまいります。

そして、誰もが支え合える社会の実現に向け、皆様と志を共に歩み続けてまいります。

今後とも、変わらぬご支援と温かいお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

AMDAの理念

多様性の共存

AMDAのモットー

救える命があればどこまでも



AMDAの人道支援3原則

- 1.誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
- 2.この気持ちの前には、国境、民族、宗教、文化等の壁はない
- 3.援助を受ける側にもプライドがある

AMDAの平和の定義

「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」

平和の阻害要因

災害 紛争・戦争 貧困

GPSP

Global Partnership for Sustainable Peace
世界平和パートナーシップ

人道支援活動を通じてAMDAの価値観を啓蒙することで、平和を実現していくのが、世界平和パートナーシップ（GPSP）事業。

GPSP事業は、平和構築・健康増進・教育支援・生活支援の4分野に分類されます。

生活支援

平和構築

教育支援

健康増進

【GPSPプログラムコンセプト】

- 1.開かれた相互扶助
- 2.パートナーシップ
- 3.ローカルイニシアチブ

GPSPプログラム分類表

平和構築	健康増進	教育支援	生活支援
①緊急支援	①プライマリーヘルスケア事業	①グローバル人材育成事業	①農業事業
②復興支援	②医療支援事業	②こども食堂プラットフォーム	②食事支援事業
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応プラットフォーム b) 災害鍼灸 c) 災害医療機動チーム	③友好病院事業	*プライマリーヘルスケア(AMDAの考える定義): 貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下3種類の活動を含むものが望ましい。 ①住民参加 ②知識を広める活動 ③社会的および経済的改善に向けての活動	
④世界災害医療プラットフォーム			

2025年度 プロジェクトの概要

実施プロジェクト件数

34件

※友好病院除く

活動対象国・地域

14か国以上

受益者数

約3万5千人以上

※友好病院患者数除く
※世帯は4人で計算

2025年度活動地域（★印は緊急支援活動を行った地域）

★ウクライナ



・人道支援

ハイチ



・国内避難民巡回診療支援

ルワンダ



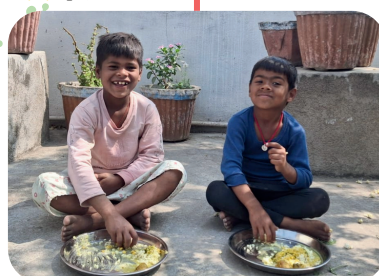
・学校保健プロジェクト

★パキスタン



・洪水被災者支援

★インド



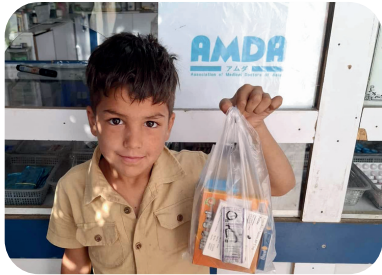
・ブッタガヤ洪水緊急支援
・「お年寄りの家」支援
・母子保健事業
・あおぞら食堂
・農業支援

スリランカ



・豪雨復興支援

★アフガニスタン



- ・強制送還者支援

ネパール



- ・地震10周年復興支援
- ・内視鏡技術協力事業
- ・ネパール病院CTスキャン事業
- ・AMDA神女クラブ ネパール研修
- ・ネパール医療者養成学校整備事業

モンゴル



- ・内視鏡技術協力事業

日本



- ・能登半島地震復興支援
- ・東日本大震災復興支援
- ・南海トラフ災害対応プラットフォーム
- ・公益財団法人大原芸術財団との包括連携協定締結
- ・大使館訪問および有機米贈呈
- ・AMDA中学高校生会
- ・AMDAこども食堂プラットフォーム

★フィリピン



- ・洪水被災者緊急支援
- ・セブ島、ミンダナオ島地震被災者緊急支援
- ・台風26号被災者緊急支援

★ミャンマー



- ・大地震被災者支援

カンボジア



- ・医学および健康に関する青年フォーラム
- ・災害時ヘルスケアワークショップ
- ・紛争避難民への寄付活動

★インドネシア



- ・豪雨被災者緊急支援
- ・AMDAフードプログラム

平和構築

1. 緊急支援活動 7
 - ウクライナ人道支援活動
 - ミャンマー大地震被災者支援活動
 - アフガニスタン強制送還者支援
 - フィリピン洪水緊急支援
 - インド・ブッダガヤ洪水緊急支援活動
 - パキスタン洪水被災者支援
 - フィリピン・セブ島、ミンダナオ島地震被災者緊急支援活動
 - フィリピン台風26号被災者緊急支援活動
 - インドネシア豪雨被災者緊急支援活動
2. 復興支援活動 13
 - 能登半島復興支援活動
 - ネパール地震10周年復興支援
 - インド「お年寄りの家」支援
 - ハイチ国内避難民巡回診療支援
 - スリランカ豪雨復興支援活動
 - 東日本大震災復興支援活動
3. 災害対応プラットフォーム 17
 - AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム
4. その他 18
 - 公益財団法人大原芸術財団との包括連携協定締結
 - 大使館訪問および有機米進呈

健康増進

1. プライマリーヘルスケア事業 19
 - インド・ビハール州ブッダガヤ AMDAピースクリニック母子保健事業
 - ルワンダ学校保健プロジェクト
2. 医療支援事業 20
 - モンゴル内視鏡技術協力事業
 - ネパール内視鏡技術移転事業
3. 友好病院事業 21
4. その他 22
 - カンボジア・医学・健康に関する青少年フォーラム
 - ネパール病院CTスキャン事業

教育支援

1. グローバル人材育成事業 23
 - AMDA中学高校生会
 - ネパール医療者養成学校整備事業
 - AMDA神女クラブ ネパール研修
2. こども食堂プラットフォーム 25
 - AMDAこども食堂支援プラットフォーム

生活支援

- 1.農業支援事業 26
インド・ブッダガヤでの農業事業
AMDAフードプログラム
- 2.食事支援事業 27
インド・ブッダガヤでの食事支援『AMDAあおぞら食堂』

巻末資料

国内の動き
連携協力協定調印
団体概要
AMDA役員
会計資料

2025年度緊急支援活動一覧

支援活動	活動期間
ウクライナ人道支援活動	2022年3月7日～継続中
ミャンマー大地震被災者支援活動	2025年3月28日～8月31日
アフガニスタン強制送還者支援	2025年9月～12月
フィリピン洪水緊急支援	2025年7月23日～9月7日
インド・ブッダガヤ洪水緊急支援活動	2025年8月26日～11月30日
パキスタン洪水被災者支援	2025年9月9日実施
フィリピン・セブ島、ミンダナオ島地震被災者緊急支援活動	2025年10月12日～22日
フィリピン台風26号被災者緊急支援活動	2025年11月14日～20日
インドネシア豪雨被災者緊急支援活動	2025年12月4日～24日

ウクライナ人道支援活動

2022年3月7日～継続中

受益者数

6,406人以上

実施場所

ウクライナ（ザカルパッチャ州ウジホロドほか、ハルキウ州ハルキウ、チェルニウツィー州チェルニウツィー）

2022年2月24日、日本から遠く離れたウクライナでは、突如として日常生活を奪われ、多くの人々が避難を余儀なくされました。当初、AMDAはウクライナから隣国ハンガリーに避難してきた方々に医療を中心とした支援を実施しました。

現在は、4か所の現地協力医療機関・団体を通じたウクライナ国内における支援へと移行しています。

これまでに、ウクライナ内外に暮らす避難者、のべ約30,000人を支援しました。

2025年度は、「特定非営利活動法人ユーラシア」を通じ、岡山県内自治体より寄付された緊急車両のウクライナまでの輸送費および車椅子の国内輸送費等の一部の支援も実施しました。

次年度も同団体と協力し、ウクライナへ緊急車両輸送支援を実施予定です。

セントミッシェル小児
総合リハビリセンター

ダイナスティメディカル
センター

City of Goodness

メドスポットの主な活動地域：ザカルパッチャ州

2018年に設立された小児リハビリセンター
現在、1日約20人の子どもたちを受け入れています。

セントミッシェル小児総合リハビリセンター

(ウクライナ・ザカルパッチャ州ウジホロド)

電力事情が逼迫しており計画停電が実施され、1日2時間程度しか電気が使えない日もある中、発電機を駆使して子どもへのリハビリを続けています。ここにはリハビリのため、戦闘地域から訪れる親子もおり、自宅が爆撃を受け、数か月間帰宅できなかった方もいました。

● 物資支援

戦闘地域からの避難者や、避難者を受け入れているコミュニティ、さらに人道危機による物価高騰の影響を大きく受けている経済的に困難な状況にある方々への医薬品や食料を支援。

● その他

停電時にも継続的なリハビリができるよう、発電機の燃料費にもAMDAの資金が活用されました。



戦闘下にあるウクライナ東部の主要都市ハルキウで地域医療を守っている、耳鼻咽喉科を専門とする医療機関。

ダイナスティメディカルセンター

(ウクライナ・ハルキウ州ハルキウ)

● 医療支援

空襲警報が30分おきに鳴り響く厳しい環境の中、ハルキウ周辺地域から何も持たずに避難してきた方や、家を失うなどして医療費の支払いが難しい患者さん、そして爆撃による耳への障害を受けた市民に対しても、無料で診察、検査、治療を行っています。そこで使用する医薬品や医療資材の一部は、AMDAの支援により賄われています。

● その他

最低気温がマイナス20度近くという厳しい寒さに見舞われる中、家で暖房が使えない人には、一時的に暖を取る場所として病院を開放し、爆撃などで自宅の暖房設備を失った人には暖房設備のあるアパートを紹介しました。



緩和ケアやリハビリを必要とする子どもやDV・貧困などにより
困難な生活を強いられている女性と子どもへの支援を目的に、2016年に設立
2022年人道危機発生後は、戦闘地域からの避難者も受け入れています。

City of Goodness

(ウクライナ・チェルニウツィー州チェルニウツィー)

● 医療支援

生後1カ月から14歳までの重い病気を抱える子どもを対象
としたホスピス『バタフライ・ハウス』を運営していま
す。ここで使用する医薬品・医療資材の一部をAMDAが
支援しました。

● 子どもの緩和ケアの啓蒙活動

2025年8月、国が困難な状況に直面する中でも、子ども
の緩和ケアに関する国際会議を主催し、海外も含め500
人を超える参加者が集まりました。



ウクライナの隣国ハンガリーの首都ブダペストを拠点に活動する医療団体。
精神科と急性期に対応できる医療者で組織されており、
ウクライナ人道支援活動初期からAMDAと協力して活動しています。

メドスポット

(ハンガリー・ブダペスト)

● 医療支援

月1回、所有する救急車でウクライナ西部ザカルパッチャ
州にある避難所を巡回し、戦闘地域から避難してきた高齢
者を中心に100から120人の患者さんを無料で診療してい
ます。慢性疾患のほか、不安や不眠などの精神的な症状に
対応することが多く、巡回診療で使用する医薬品を
AMDAが提供しています。



関係者の声

AMDAからの支援により、医薬品が値上がりした際
も躊躇することなく、冬の風邪やインフルエンザの
流行に備えて医薬品を確保できました。また、私た
ちの施設で暮らす総勢300人の親子の食材も購入で
きました。このような継続的な支援は本当にありが
たく、感謝しています。

(City of Goodness代表のマルタ氏より)



人道危機は5年目に入り、支援する側にも疲れが見え始めて
います。しかし、時間の経過とともに支援の重要性は増して
います。避難者は非常に疲弊しており、心の支えを必要とし
ています。今回初めて活動で訪れたザカルパッチャ州チョブ
の避難所では、医師による無料診察や薬の提供、さらに親身
に耳を傾けるメドスポットチームの存在に、人々は驚いてい
ました。戦闘が長期化する中でも支援を続けるAMDAに、
ウクライナ人を代表して心より感謝申し上げます。

(メドスポット現地通訳担当ナターリア氏より)



ミャンマー大地震被災者支援活動

2025年3月28日～8月31日

受益者数	自治体保健局、大学、医療機関など計13か所	実施場所	ミャンマー
派遣者	神徳 隆之/医師/AMDA緊急救援ネットワーク 菅原 久美子/看護師/AMDA緊急救援ネットワーク 小川 直美/看護師/AMDA職員		

被災地の医療体制を支える緊急支援を実施

2025年3月28日、ミャンマー中部で発生したマグニチュード7.7の地震により、死者3,757人、負傷者5,000人以上（ミャンマー災害管理局、4月22日時点）という甚大な被害が生じました。AMDAは発災直後から、長年協力関係にある現地団体People's Health Foundation（PHF）などと調整を進め、4月4日から1週間の日程で医師1人、看護師2人からなる調査チームをミャンマーに派遣しました。



調査チームとPHFによる協議の結果、医薬品支援と経済支援を実施することが決定し、抗菌薬や降圧薬、感冒薬を含む必須医薬品は関係者を通じて、被害の大きかったマンダレー地方域を管轄する保健局に届けられました。また、被災したネピドー、マンダレー、バゴー、サガイン管区、シャン州の自治体保健局、大学、医療機関、計12か所に経済支援を行いました。ネピドーのピンマナ総合病院では、応急処置用医薬品の調達、被災した病棟の衛生環境改善、安全な飲料水の確保に活用され、サガイン管区にあるワチェット僧院病院では、被災地での食料や医薬品の提供、高齢者支援に役立てられました。

アフガニスタン強制送還者支援

2025年9月～12月

受益者数	542人	実施場所	アフガニスタン・カブール州カブール
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAアフガニスタン支部		

帰還を余儀なくされた人々への医療支援

2021年8月にタリバンが政権を奪還して以来、アフガニスタンでは、多くの市民が隣国のイランやパキスタンに逃れました。他方、渡航先の国々では、近年、難民に対する在留資格の規制を強化する動きが見られ、多数の避難者が国外退去処分となっています。

こうした中、AMDAアフガニスタン支部では、強制送還後、貧困に喘ぐ人々を対象に、同支部が運営する『日本アフガニスタン友好病院』において、診察と治療を無料で行いました。女性や子ども、高齢者を含む計542人が受診し、必要に応じて薬が処方されました。資金上の理由により、医療サービスの無料提供が年内で終了となる中、受益者からは支援の継続を切望する声が寄せられました。



フィリピン洪水緊急支援

2025年7月23日～9月7日

被災者数	のべ2,170人	実施場所	フィリピン・マニラ首都圏・バレンズエラ市/ブラカン州サン・イルデフォンソ市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAフィリピン支部、フィリピン医師会（PMA）デング熱対策委員会 フィリピン医学生協会、タウ ガンマ フィ 学生クラブ、バレンズエラ高校 マニラ101ロータリークラブ、フィリピン産業医学会、バレンズエラ市マルラス地区 サン・イルデフォンソ市バスケット地区 ほか		

避難生活を送る人々の心と体を支援

7月中旬、南西モンスーンと台風の影響により、ルソン島を中心に洪水が発生しました。AMDAは23日にフィリピン支部からの要請を受け支援を決定。25日、同支部はマニラ首都圏バレンズエラ市内の避難所5か所で750人を診察し、多くの方に熱や咳といった風邪症状がみられました。また、炊き出しには800人が集まり、30人の子どもたちがレクリエーション活動に参加しました。その後も被害は長期化し、9月7日には、ルソン島中部ブラカン州サン・イルデフォンソ市で診察、歯科治療、衛生教育などの医療支援と炊き出しを行い、のべ590人が参加しました。



フィリピン支部長のエリカ・タニア・ダビロ医師は今回の活動について、「私たちが早く避難所に入ることで、避難生活に起因する被災者の精神的負担を和らげられたと感じています。被災者からは、特に、子ども、お年寄り、そして慢性疾患を持つ患者に対する長期的な支援を求める声もありました。」と話しました。

インド・ブッダガヤ洪水緊急支援活動

2025年8月26日～11月30日

受益者数	975人	実施場所	インド・ビハール州・ブッダガヤ郊外
派遣者	あるちゃん・ジョシ/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAピースクリニック、地元ボランティア		

被災した村々に寄り添い、暮らしの再建を後押し

8月22日、大雨によりブッダガヤを流れるファルグ川が氾濫し、川沿いの地域では家が全半壊する被害が発生しました。同地で母子保健事業を行うAMDAは、地元スタッフを中心に、被災した村の調査を実施しました。その結果、カースト制度の中で最も身分の低いマンジーと呼ばれる人々が多く暮らし、貧困率が高いことが分かりました。洪水で食料や家畜も流されたため、米や豆類、じゃがいも、玉ねぎ、油、スパイス、ビスケットなど、家族が1週間生活できる量を、被災したゴンガリア村に暮らす75世帯に配布しました。また蚊やハエの増加など衛生面の課題を受け、後日ゴンガリア村および近隣のバタスプール村で、約600人に蚊帳や生理用ナプキン、ビスケットを配布しました。本活動は、『フェリシモ地球村の基金』を通じたご寄付で実施しました。



支援を受けた住民の声

家も持ち物も失い、現在、屋外で生活しています。このような時には、AMDAチームが家族のように駆けつけてくれました。この支援は私たちが前に進むための勇気もくれました。

パキスタン洪水被災者支援

2025年9月9日

受益者数	100世帯	実施場所	パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州ブネール県
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	ハムダード財団、Khidmat-e-Khalq Foundation (KKF)、現地自治体ほか		

現地との連携が支えた円滑な支援活動

8月にパキстанを襲った洪水被害に対し、AMDAと長年協力関係にあるハムダード財団が現地で食糧支援を実施しました。対象地域となったのは被害が深刻だった北西部カイバル・パクトゥンクワ州ブネール県の4か所で、その大半が山間の僻地に位置しています。配布された計800セットの食糧のうち、AMDAは100セットを提供しました。



悪路により、山間部へのアクセスは困難を極めた一方、被災地との事前調整が功を奏し、物資の配布は円滑に進められました。その要因として、受け入れ側の自治体を通じてあらかじめ被災者にカードを配り、これと照合させる形で、物資の配布リストを準備した点が挙げられます。

同日遅くまで続いた支援活動でしたが、現地自治体や地域有力者の惜しみない協力により、無事終了しました。

フィリピン・セブ島、ミンダナオ島地震被災者緊急支援活動

2025年10月12日～22日

被災者数	300世帯+830人以上	実施場所	フィリピン・セブ島/ミンダナオ島・メダン/ダバオオリエンタル州ほか
派遣者	荻野 祥子/看護師/AMDA緊急救援ネットワーク、 大山 マージョリー/調整員/岡山倉敷フィリピーノサークル、 小川 直美/看護師/AMDA職員 宿里 謙次/看護師/AMDA緊急救援ネットワーク（フィリピンにて合流） Abraham II Nunez Bulacac/調整員（フィリピンにて合流）		

物資支援と心のケアで被災地に寄り添う

2025年9月30日にセブ島沖でマグニチュード6.9の地震が発生し、死者79人、負傷者559人、約75万人が被災しました。また、10月10日にはミンダナオ島沖で最大マグニチュード7.4の地震が発生。死者10人、負傷者176人、被災した人の数は約151万人にのぼりました。発災直後にはパニックを起こす子どもたちもいました。また余震が続く中、多くの人々が不安を抱えながら生活をされていました。



AMDAは現地関係者と連携しながら、緊急支援活動を実施。ミンダナオ島のダバオオリエンタル州カラガ町で食品を中心とした物資配布を行ったほか、ミンダナオ島、セブ島の各地域で子どもを対象としたメンタルヘルスケア活動、医療相談、医薬品提供を行いました。またセブ島メデリン町へ義援金を贈呈し、復興に必要な備品等の購入に充てていただきました。

フィリピン台風26号被災者緊急支援活動

2025年11月14日～20日

受益者数	500世帯	実施場所	フィリピン・カタンドゥアネス州
派遣者	古城 デイジー/調整員/岡山倉敷フィリピーノサークル 小川 直美/看護師/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	Asian Center of Excellent in Development and Security フィリピン看護協会カタンドゥアネス支部 Nights of Columbus		

現地と連携し、被災者へ迅速に支援を届ける

台風26号は11月8日から9日にかけてビコール地方に接近し、甚大な被害をもたらしました。この台風により死者33人、負傷者51人、行方不明者1人が確認され、約213万世帯・753万人以上が被災しました。



11月10日に現地協力団体ACEDSを通じてカタンドゥアネス州の住民の方より支援要請がAMDAに入りました。この要請を受け、11月14日AMDАは岡山より看護師1名、調整員1名を派遣。現地協力団体と連携し、500世帯分の米や缶詰などの支援物資を購入、梱包しました。18日には被害の大きかった同州北部の2町5地区において物資配布を実施しました。

被害の大きかった地域では漁業で生計を立てている方が多く、今回の台風で舟が流されるなど生活基盤にも深刻な影響を与えていました。

インドネシア豪雨被災者緊急支援活動

2025年12月4日～12月24日

受益者	700人以上	実施場所	インドネシア・アチェ州/北スマトラ州 アチェタミアン県/シボルガ市ほか
派遣者	押谷 晴美/看護師/AMDA緊急救援ネットワーク 菅原 久美子/看護師/AMDA緊急救援ネットワーク 小川 直美/看護師/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAインドネシア支部、インドネシア・ムスリム大学、アジア医学生連絡協 (AMSA) /TBM110、地元ヘルスセンター、インドネシア麻酔・集中治療学会北スマトラ州 支部、インドネシア小児学会北スマトラ州支部、PLN社会福祉財団 (YBM PLN)		

医療の空白地帯で命と健康を支える

11月下旬の豪雨により、スマトラ島北部を中心に洪水や土砂災害が発生しました。この災害により、死者1,106人、行方不明者175人、負傷者約7,000人を確認。今回支援に入ったアチェタミアン県では全人口約30万人のうち、25万人以上の方が被災されました。

この状況を受けて、AMDAインドネシア支部は12月4日から被災地での活動を開始、日本からも看護師を派遣しました。発災から2週間近くが経過しても、地元の医療機関の再開が進まず、AMDAチームが現地に入った初めての医療チームとなった地域もありました。被災地では胃腸炎や呼吸器感染症、皮膚疾患、慢性疾患の悪化、外傷などが多く見られました。また医療支援に加え、給水支援や食糧・生活用品の配布を行いました。



能登半島復興支援活動

2025年1月20日～継続中

実施場所	石川県輪島市
派遣者	大西 彰/AMDA職員、小川 直美/AMDA職員、勢島 康士朗/AMDA職員

地域医療の再建を支える医療機器支援

2024年元日の能登半島地震とその後の豪雨により、石川県輪島市は甚大な被害を受けました。火災で焼失した輪島朝市の跡地は更地となり、市内には3,000棟以上の仮設住宅・応急仮設住宅が整備されています。人口減少や学校再編、インフラの損傷など課題が続く中、AMDAは地震と洪水の二重被害を受けた医療機関に対し、超音波診断装置（エコー）、吸引器、輸液ポンプなどの医療機器を寄付しました。

ネパール地震10周年復興支援

2025年4月25日

受益者数	防災セミナー：50人 ヘルスキャンプ：79人	実施場所	ネパール・カーブレ・ パランチョーク郡・ベタンチョーク村
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAネパール支部、ロータスネパール、自治体職員、医療スタッフ、地域ボランティア		

ネパール大地震から10年—防災と医療を通じた地域支援

2015年4月25日に発生したネパール大地震から10年となり、AMDAネパール支部は現地協力団体ロータスネパールと連携し、ベタンチョーク村で医療支援及び防災啓発活動を実施しました。同村は山間部に位置し、豪雨や地滑りなど自然災害のリスクが高く、2024年にも大雨による被害が発生しています。そのため、防災意識の向上及び医療アクセスの改善が課題となっていました。



活動では、防災セミナーとヘルスキャンプを実施しました。防災セミナーでは地震、洪水、地滑りへの備え、避難行動、応急手当の方法などを紹介しました。ヘルスキャンプでは尿路感染症や胆石、子宮頸がんの疑いなどの疾患が確認されました。本活動は『フェリシモ基金』の助成を受けて実施しました。

インド「お年寄りの家」支援

2025年6月14日～8月末

受益者数	24人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
------	-----	------	----------------

高齢者施設の修繕支援—安心して暮らせる場所を取り戻す—

2025年6月、インド・ビハール州ブッダガヤの「お年寄りの家」がモンスーンによる暴風雨で被災し、台所と牛舎が大きな被害を受けました。施設は身寄りのない24人のお年寄りが暮らす終の棲家であり、食事の準備や生活に深刻な影響が生じました。AMDAは施設設立者からの要請を受けて修繕支援を実施し、6月から工事を開始、8月末に完了しました。新しい台所で温かい食事の提供が再開され、牛舎の再建により酪農収入も回復し、入居者の生活基盤の再建につながりました。



ハイチ国内避難民巡回診療支援

2026年1月6日～2026年4月10日

受益者数	のべ4,220人	実施場所	ハイチ共和国ポルトーフランス市 デルマス地区
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAハイチ支部		

医療と安心を届けるーハイチ避難民キャンプでの巡回診療活動

ハイチでは武装集団による市街地占拠や治安悪化が続き、多くの住民が学校や教会、旧公共施設などを利用した避難民キャンプで不安定な生活を送っています。水や衛生設備も十分ではなく、感染症や慢性疾患の悪化が懸念される状況となっています。



これを受け、AMDAハイチ支部が中心となり、ポルトーフランス市デルマス地区の国内避難民キャンプにおいて、医科・歯科の巡回診療を実施しました。巡回診療では、のべ2,790人（医科2,305人、歯科485人）が受診し、感染症への対応に加え、継続受診が難しかった高血圧など慢性疾患患者へのフォローも行い、住民からは「体調が悪い時にすぐ相談できる」「継続して診てもらえて安心する」といった声が聞かれました。また、キャンプに身を寄せる子どもへの食事・飲料提供や、衛生キットの配布も実施しました。本活動は、『フェリシモ地球村の基金』を通じたご寄付により実施しました。

スリランカ豪雨復興支援活動

2026年1月17日～2026年1月28日

受益者数	402人	実施場所	スリランカ コロombo/ヌワラエリヤ
派遣者	平山 貴一/医師/AMDA緊急救援ネットワーク、祖母井 利昭/調整員/AMDA職員、 ラマチャンドラ カマト/医師/AMDAインド支部（インドから合流）		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAスリランカ支部、IIHS学生（International Institute of Health Sciences）、 Sarvodaya（現地NGO）		

被災者支援と次世代育成で地域の未来を支える

2025年11月に発生したサイクロンにより、スリランカでは国土の約2割が浸水し、約170万人が被災しました。復興への移行期支援のため、AMDAはスリランカ支部、現地医学生、現地最大NGOであるSarvodayaらと連携し、医療・食糧・教育支援を実施しました。IIHS大学では、今後の支援を担う医学生を対象に災害対応研修を行い、希望者はその後の現地支援活動に帯同しました。

コロomboでは、貧困家庭の母親と乳幼児を対象に物資配布と診察を行い、保健事務所には業務再建のための備品を寄贈しました。ヌワラエリヤでは、病院や行政と面談し被災状況を確認するとともに、108世帯414人が避難する避難所で診察を実施、昼食の配給、ならびに支援物資としてお米を配布しました。コロomboに戻り「災害から立ち直る力のある未来を次世代に」という趣旨のセミナーを共催、その後関係機関や国連とも面談し、要配慮者への継続的な医療体制の確保や母子保健情報の管理強化について提言しました。



東日本大震災復興支援活動①AMDA大槌健康サポートセンター 2011年3月12日～2026年3月31日

受益者数	のべ572人	実施場所	岩手県大槌町
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	佐々木 賀奈子/鍼灸師/AMDA大槌健康サポートセンター長 鳩岡 稔/木工教室講師		

木工教室とオンライン健康セミナー/地域住民との交流会

大槌健康サポートセンターでは、1年を通じて定期的に木工教室や健康増進セミナーを実施しました。おかやまコープ組合員と大槌の地域住民の「貝殻のストラップ作りと交流会」もオンラインで行われました。

2026年3月4日には、AMDA本部の職員3名とおかやまコープ職員1名の計4名が現地に赴き、同センターで地域住民との交流会を行いました。郷土料理などを食べて互いに親交を深めながら、一緒に震災からの15年を振り返りました「私はみんなと一緒に笑うためにここに来ている」といった住民の言葉から、AMDAのこれまでの継続的な復興支援活動や地域住民の集う同センターの意義を改めて知ることができました。

最後には、15年間同センターを支え続けた佐々木センター長への労いとして、感謝状と花束を贈呈しました。佐々木センター長は「15年間の恩にただ感謝するだけではなく、次は私たちが恩を返し、子や孫へとつないでいきたい」と話しました。



東日本大震災復興支援活動②仙台市震災ホームレス支援 2013年～2026年

受益者数	のべ3,000人	実施場所	宮城県仙台市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	NPO法人仙台夜まわりグループ		

路上生活者の安心と健康を支える取り組み



NPO法人仙台夜まわりグループは、仙台市内の路上生活者に、食事の提供、生活相談、衛生改善事業の一環として、シャワーや洗濯機・乾燥機を使用する機会を提供するほか、多面的なサポートを行っています。寝起きする場所を定期的に訪れる夜回り活動では、食事に加えて、カイロ、蚊取り線香、寝袋などの物品も配布。大人食堂では、衣類の配布、血圧測定、健康相談も行い、治療の必要な方の病院への付き添いもしています。

AMDAからは岡山米や缶詰を提供し、加えてグンゼ株式会社よりご支援いただいた肌着を同グループに寄贈しました。

東日本大地震復興支援活動③気仙沼・生活支援物資（食料品）事業

2025年4月1日～2026年3月31日

受益者数	のべ1,200人	実施場所	宮城県気仙沼市 南町紫神社前商店街
従事者	坂本 正人/復興グルメF-1運営事務局代表/AMDA参与 菅原 尚美/復興グルメF-1運営事務局		

支え合いの輪を広げるコミュニティ支援

前年度に引き続き、各月のイベントに合わせて、生活再建中の地域住民への支援と地域のコミュニティの繋がりとなるよう毎月100人分の生活支援物資（お米、パン、レトルトごはん、パスタ、パスタソース、インスタントラーメンや卵など）の配布を行いました。

配布当日は早朝から多くの方が来られ、お礼の言葉をたくさんいただきました。

毎回8品から9品の食料品の配布をしているため、買い出しや在庫管理、品物の運搬、当日の配布を商店街のスタッフの方や、栃木のボランティアさんのお力をお借りし作業しました。



イベント参加者の声

「いつも本当に助かっています」

「いつもありがとうございます」

（初めて来られた方からは）

「こんなにたくさんいただいてありがとうございます」

東日本大地震復興支援活動④第18回復興グルメF-1大会

2026年3月29日

受益者数	のべ1,300人	実施場所	宮城県南三陸町 志津川仮設魚市場
派遣者	難波 比加理/AMDA職員、太田 浩子/AMDA職員、芦川 篤子/AMDA職員、 勢島 康士朗/AMDA職員		

13年間の歩みの集大成となる最終大会を開催

東日本大震災被災地の商店街を中心とした地域間の交流と連携を結ぶ事業として、「復興グルメF-1大会」を2013年1月より実施しています。本年度は、商店街の復興が進み初期の目的を果たしたことから、3月29日宮城県南三陸町において最後となる第18回大会を開催しました。

当日は岩手県、宮城県、福島県、栃木県の8地域より計17のグルメを販売するブースに加え、AMDA大槌健康サポートセンターほか地元物販の3つのブースが出店し、約1,300人の来場者が訪れ大いに賑わいました。長年応援してくださったボランティアさんも各々の地域から駆けつけて会場設営、運営のお手伝いをしてくださいました。また当日ご来賓として、南三陸町の千葉 啓 町長、佐藤 仁 前町長にお越しいただき、ご挨拶をいただきました。最後の大会で優勝した『チーム南相馬』の方より、「大会に出ることはお店を認めてもらうとともに自分たちの存在意義を感じる大会になった」とコメントがありました。

当日の催しとして、太鼓演奏や歌のパフォーマンス、さらに、地元のゆるキャラ登場や来場者参加のビンゴ大会も実施し、会場は終始活気に包まれ、盛会のうちに終了しました。



F-1大会参加者の声

「どのグルメも美味しかった」

「大会が最後なのは残念」



AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム

2015年～継続中 通年実施

実施場所

岡山県、徳島県、高知県

命を守る連携を未来へ —AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム—

AMDAでは、発生すれば死者30万人、300万人が被災するとも言われる南海トラフ巨大地震への取り組みとして、「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」を2015年に設立。巨大地震が発生した場合に、孤立しやすい四国の徳島県・高知県に10チームが迅速に支援活動を行えるよう、自治体、医療機関、企業などが一体となり準備を進めています。

◆2025年度の主な取り組み

- ① 支援に駆けつける医療機関と、支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流、訓練を通じての交流などを実施



8月4日美馬市災害対策本部運営訓練



10月26日阿南市避難所開設運営訓練



2月22日牟岐町防災訓練・講義

■2025年度防災訓練実施一覧

- 8月4日 美馬市災害対策本部運営訓練
- 9月1日 徳島県図上訓練
- 10月24日 徳島県美馬市訓練見学
- 10月26日 阿南市避難所開設・運営訓練
- 11月16日 黒潮町総合防災訓練
- 12月6日 総社市防災訓練
- 1月20日 徳島県CPX（災害対策本部訓練）
- 1月25日 南海レスキュー、牟岐町救護所訓練参加
- 2月22日 徳島県牟岐町訓練
- 3月14日 災害ボランティアフェスティバルin総社



8月4日 美馬市災害対策本部運営訓練

- ② AMDAセミナーを通じて支援に入る医療機関やAMDA緊急救援（ER）ネットワークのメンバーと平時からの関係強化 と発災時の対応強化を目的に年4回実施

- ③ 南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議実施

2025年10月20日、岡山市北区奉還町の岡山国際交流センター国際会議場で第7回「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議」を開催しました。

自治体や協力医療機関、企業・団体、教育機関など四国をはじめ、全国各地より多くの皆様（143名）にご参加いただきました。



公益財団法人大原芸術財団との包括連携協定締結

2025年11月19日

開催場所	大原美術館児島虎次郎記念館（岡山県倉敷市）
調印者	公益財団法人大原芸術財団 代表理事 大原 あかね 特定非営利活動法人AMDА 理事長 佐藤 拓史



大原芸術財団と包括連携協定を締結

2025年11月19日、倉敷市本町・大原美術館 児島虎次郎記念館にて、AMDАと公益財団法人大原芸術財団は、包括連携に関する協定の調印式を行いました。

本協定は、大原芸術財団とAMDАが、互いの事業特性を活かし、人的・文化的・知的資源の交流と活用を図り、連携・協力することで、地域文化・社会・世界の発展、相互扶助の精神育成、被災地の復興や被災者の心のケアに寄与することを目的としています。今後、協働事業の具体的な内容については協議を進め、順次発表する予定です。

大使館訪問 および有機米進呈

2025年度

実施場所	ウクライナ大使館・ハンガリー大使館
派遣者	難波 妙/AMDА副理事長

大使館等表敬訪問および有機米の贈呈

2026年1月6日および2月17日、AMDА副理事長の難波 妙は、ウクライナ大使館及び駐日ハンガリー大使館を訪問し、これまでのウクライナ人道支援活動について報告を行いました。

ウクライナ大使館では現地の最新状況について情報共有が行われ、キーウでの医薬品倉庫の被害や東部地域の厳しい生活状況、子どもたちの保護事例などが報告されました。一方で、国内外の支援により基本的な医療提供は継続されていることも確認されました。

ハンガリー大使館では、医療団体「Med Spot」との連携を含む継続的な支援について説明し、これまでの協力への謝意を伝えました。

両大使館からは今後の協力に前向きな意向が示され、AMDАは引き続き現地団体と連携し支援活動を継続していくことを伝えました。



また、AMDА海外支部のある国や地域、活動国の駐日大使館・領事館はじめ関係機関公館など、計7か所に岡山県新庄村の有機米を贈呈しました。

AMDAピースクリニック母子保健事業

2009年11月～継続中

受益者数	妊産婦・乳幼児 のべ1,653人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
派遣者	難波 妙/調整員/AMDA副理事長、あるちな・ジョシ/調整員/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAピースクリニック (APC)		

予防と教育で守るいのち——APCの母子保健の取り組み

2009年に開院したAMDAピースクリニック (APC) は、2014年からブッダガヤの貧困地域で母子保健事業を実施しています。地元産婦人科医による妊産婦健診をはじめ、マタニティクラス、超音波検査費用の支援、妊産婦宅への戸別訪問などを通じて、産前産後のお母さんが安心して暮らせるよう活動しています。今では初産婦として通った後、次の妊娠でもAPCを利用する方が多く見られます。



妊産婦健診は月2回行われ、各回約30人が受診します。健診では、体重・血圧測定、診察、胎児の心拍確認に加え、必要に応じて血液検査や薬を無償で提供しています。毎週水曜日のマタニティクラスには約20人が参加し、妊娠中の危険サインや母乳育児の重要性など、週ごとに異なる健康に関するトピックを学びます。クラス終了後には、地元でも入手しやすい食材を使った軽食も提供しています。こうした取り組みを通じて地元のお母さんとの信頼関係を築いてきたAPCは、今後も気軽に相談できる場として活動を続けていきます。

ルワンダ学校保健プロジェクト

2015年～継続中

受益者数	1,030人以上	実施場所	ルワンダ・南部州・ギサガラ地区他
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会/キビリジ地区病院/GSキビリジ校/他現地協力者		

ルワンダの子どもたちに健やかな未来を——AMDAの学校保健支援

AMDAは2015年～特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会とともに、ルワンダ国内での学校保健事業に取り組んでいます。

本年度も9月24日から26日の3日間にわたって、GSキビリジ校にて学校健診を行いました。この地区では多くの家庭は貧困や病院へのアクセスの問題を抱えており、この取り組みは保護者から歓迎されました。3歳から15歳の児童1,030人に健診を実施し、そのうちおよそ20%にあたる203人に健康上の問題があることが分かりました。主な疾患は頭部白癬と虫歯で、保護者の認識不足が課題として挙げられました。そのため後日、保護者向けの教育セッションを行い、病気についての説明や、地域の医療機関への受診を促しました。

また健康診断以外にも、栄養状態に問題を抱える児童への鶏卵の提供、手洗いや歯磨きなどの衛生教育とそれに関連した物資の提供なども行っています。



モンゴル内視鏡技術協力事業

2026年1月6日/2026年2月17日

受益者数	治療対象者4人 研修・講演参加者243人	実施場所	モンゴル・ウランバートル市 (日本モンゴル教育病院)
派遣者	白井 保之/医師/小倉記念病院消化器内科主任部長 佐藤 拓史/医師/AMDA理事長、難波 妙/調整員/AMDA副理事長		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	モンゴル日本教育病院		

モンゴル国内の医療技術向上を目的としたプロジェクト



2017年9月に開始したモンゴルにおける内視鏡技術協力事業は、コロナ禍を除き継続的に実施され、今回で8回目を迎えました。現地医師と共同で治療を行い、技術向上を図っています。今回はEVL1例、EISL2例、胃静脈瘤に対するEIS1例を実施し、治療前には内視鏡医と放射線科医がCTによる門脈血行動態評価の必要性を検討するなど、医療体制の進捗が確認されました。また、内視鏡ワークショップやシミュレーターを用いた研修を実施し、国内外の医師や医学生が参加しました。さらに、モンゴル日本教育病院とのMOU更新に合意し、連携強化を確認したほか、佐藤理事長の客員教授就任や学会発表など、学術面でも成果が得られました。この活動の一部は公益財団法人テルモ生命科学振興財団の助成金を受けて実施されました。

ネパール内視鏡技術移転事業

2026年2月24日～2026年2月27日

受益者数	43人	実施場所	ネパール・ジャバ郡ダマック市 (AMDAダマック病院)
派遣者	佐藤 拓史/医師/AMDA理事長 あるちゃん・ジョシ/調整員/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAネパール支部、AMDAダマック病院		

AMDAネパールダマック病院における技術指導

AMDAダマック病院において、佐藤医師は2018年より内視鏡技術の指導を継続しており、2026年2月24日から27日には4回目となる現地研修を実施しました。研修には同病院の医師5名と近隣病院の医師2名が参加し、これまで指導を受けてきたネパール人医師も加わりました。研修期間中、上部内視鏡19件、下部内視鏡24件を実施し、大腸がん2例を発見して専門病院へ搬送したほか、ポリープ切除などの処置も行いました。

今回、以前から指導を受けてきたネパールの医師が、現地の医師たちに自分の技術を伝え内視鏡医を育てる大切な任務を果たすようになってきています。日本の技術がネパールの医師に受け継がれ、少しずつですが自らの力で治療ができるように発展してきています。



研修生の声

本研修を通して、より良い診断や治療を提供する力を高めることができました。今後もご指導いただきながら、さらに研修を重ねて、内視鏡の技術を高めたいと思っています。



病院名	設立年	患者数 2025年度のべ	内容
ネパール・AMDAメチ病院	2008年	10,000人	【所在地】ネパール・ジャバ県メチナガル市 【診療科】内科・産婦人科・皮膚科 【スタッフ数】35人（医師7・看護師4・他24）
ネパール・AMDAダマック病院	1992年	75,000人	【所在地】ネパール・ジャバ県ダマック市 【診療科】内科、外科、産婦人科、婦人科、小児科、 整形外科、耳鼻科、皮膚科、精神科、歯科 【スタッフ数】266人（医師35・看護師81・他150）
ネパール・シッダールタ 母と子の病院 通称：ネパール子ども病院	1998年	80,000人	【所在地】ネパール・ルーパーンデヒ郡ブトワル市 【診療科】産婦人科・小児科・新生児科・内科・外科 【スタッフ数】164人（医師26・看護師69・他69）
ネパール・シマズ歯科医院	1999年	800人	【所在地】ネパール・カトマンズ郡ジョルパティ市 【診療科】歯科 【スタッフ数】2人（医師1人）
日本アフガニスタン 友好病院	2011年	18,803人 (2025年1月1 日～12月31日)	【所在地】アフガニスタン・カブール 【診療科】内科・外科・歯科・小児科・産婦人科・検査 ・予防接種 【スタッフ数】17人（医師5・歯科医師1・看護師2・薬剤師1・ 検査技師1・他）
日本バングラデシュ 友好病院	1994年	120,920人 (2025年4月～ 2026年2月)	【所在地】バングラデシュ・ダッカ 【診療科】いくつもの専門部門を有する大規模総合病院 【スタッフ数】454人（医師、医療技術者、その他スタッ フを含む）
日本モンゴル 友好病院	2012年	1,260人 (2025年1月1日 ～11月30日 ※7月中休診)	【所在地】モンゴル・ウランバートル 【診療科】消化器内科、呼吸器内科（緩和ケア含む）、 総合内科 【スタッフ数】8人（医師3・看護師2・調理員1・補助2）

ネパール・AMDAダマック病院



日本モンゴル友好病院



日本バングラデシュ友好病院



カンボジア・医療・健康に関する青少年フォーラムほか 2025年4月～2026年3月

参加者数	200人程度 (全活動合計)	実施場所	ガンボジア・プノンペン市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAカンボジア支部、チェンラ大学、RCRC職業訓練センター、 カンボジア国立HIV/AIDS・皮膚病学・性感染症センター（NCHADS）、 (株) 山一観光、AMDA本部ほか		

未来の医療を担う若者たちへ——青少年フォーラム2025



2025年度、AMDAカンボジア支部は、学生や保健ボランティアを対象とした青少年フォーラムや災害時医療に関するワークショップを実施しました。チェンラ大学、RCRC職業訓練センター、カンボジア国立HIV/AIDS・皮膚病学・性感染症センター（NCHADS）などの協力を得て開催された第8回青少年フォーラム（7月）では、「グローバル化と科学技術の進展下における若年層のセクシャル・リプロダクティブヘルス」をテーマに取り上げ、ソーシャルメディアの台頭に伴う、同分野における新たな課題への理解促進や、主体的な健康管理の重要性について学びました。さらに2月には、タイ・カンボジア間の国境紛争に伴う避難民増加を受け、災害時ヘルスケアに関するワークショップを開催。82人の学生に対して避難民キャンプでの活動時の留意点やPTSDへの対応を指導しました。

また、国内外から寄付を募り、食料や生活物資等を国境付近の難民キャンプに提供しました。これら一連の活動は、株式会社山一観光による長年のご支援により継続されています。

ネパール病院CTスキャン事業 2025年9月

受益者数	401人	実施場所	ネパール・コシ州・ジャバ郡・ ダマック市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAネパール支部、AMDAダマック病院		

AMDAダマック病院における技術指導と機材支援

ネパール・コシ州ジャバ郡ダマック市にあるAMDAダマック病院は、地域住民や周辺地域からの患者を受け入れる中核病院で、年間約39,000人が受診しています。遠方から1日かけて来院する患者も多く、1日に15から20件の手術や分娩が行われるなど、地域医療を支える重要な役割を担っています。しかしこれまでCT装置がなく、外傷や脳卒中、腹部疾患などの診断に時間を要することが課題となっていました。また、他院でCT検査を受ける場合は費用負担が大きく、特に経済的に厳しい家庭にとって大きな負担となっていました。

こうした状況を改善するため、AMDAからの資金支援を受け、2025年9月にキヤノン製160スライスCTを導入しました。検査費用は他の民間病院より10から20%安く設定され、経済的に厳しい患者には減免制度も設けています。導入後は迅速で正確な診断が可能となり、患者からは「地元でCT検査を受けられるようになり安心しました」との声が寄せられています。



AMDA中学高校生会

1995年～継続中

メンバー数

56人

実施場所

岡山県岡山市・倉敷市、兵庫県神戸市

未来を見つめる若い力——AMDA中学高校生会の2025年度

AMDA中学高校生会は、AMDAの相互扶助の理念に基づき、災害・防災への取り組みや異文化交流など、国内外に目を向けたさまざまな活動に、中学生・高校生が主体となって取り組んでいます。

◆AMDA中学高校生会オープンクラス2025年春

〈新入生へ活動説明会〉

◇実施場所：国際交流センター ◇実施日：2025年5月10日

◇参加者：見学に来た中学生・高校生6人/AMDA中学高校生会10人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/AMDA職員1人

◆神戸研修

〈発災から30年を迎えた阪神・淡路大震災を学び、防災・減災に関する知見を深めることを目的として研修〉

◇実施場所：阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター（神戸市）

◇実施日：2025年8月6日

◇参加者：AMDA中学高校生会12人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/AMDA職員1人

◆RSKラジオ収録

〈RSKラジオ：天神ワイド朝内「AMDA命を救うラジオ」へ出演〉

◇活動場所：RSK山陽放送株式会社 本社社屋 ◇実施日：2025年8月12日

◇参加者：中学高校生会有志メンバー3人/AMDA職員1人

◆神戸研修活動報告会

◇活動場所：きらめきプラザ ◇実施日：2025年8月24日

◇参加者：AMDA中学高校生会8人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/大学生ボランティアコーディネーター2人/AMDA職員1人

◆倉敷国際ふれあい広場

〈パネル展示にてAMDAの活動紹介〉

◇活動場所：倉敷市芸文館 ◇実施日：2025年10月19日

◇参加者：AMDA中学高校生会15人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/大学生ボランティアコーディネーター2人/AMDA職員1人

◆ネパールオンライン交流会

〈AMDAネパールが運営する病院付属の看護学校の生徒とオンラインで交流会〉

◇活動場所：きらめきプラザ（にてZoomを実施）

◇実施日：2025年11月9日

◇参加者：ネパール人看護学生13人（見学40人以上）/AMDA中学高校生会10人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/大学生ボランティアコーディネーター2人/大学生ボランティア1人/インターン1人/AMDA職員2人

◆AMSA×AMDA中学高校生会オンライン交流会

〈AMSA：アジア医学生連絡協議会とオンラインで交流会〉

◇活動場所：オンライン ◇実施日：2025年12月14日

◇参加者：AMSAメンバー9人/AMDA中学高校生会10人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/大学生ボランティアコーディネーター2人/AMDA職員1人



◆AMDA中学高校生会30周年記念同窓会

〈AMDA中学高校生会発足30周年を記念して同窓会を開催〉

◇活動場所：アンソレイユ ◇実施日：2025年12月28日

◇参加者：AMDA中学高校生会13人

AMDA中学高校生会OG・OB15人

AMDA理事長/AMDA職員3人

AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人



◆AMDA中学高校生会オープンクラス2026年春

〈新入生へ活動説明会を実施※試験的に新年度前に開催〉

◇実施場所：オルガホール貸し会議室 ◇実施日：2026年3月20日

◇参加者：見学に訪れた中学生・高校生18人/AMDA中学高校生会メンバー20人/AMDA中学高校生会チーフコーディネーター1人/大学生ボランティアコーディネーター2人/AMDA職員2人

◆その他AMDAイベントへの参加およびサポート

4月26日岡山県中央メーデー 連合岡山・東部地協2025ふれあいメーデー

10月17日 フィリピンセブ島沖地震被災者緊急支援活動（街頭募金）

11月18日 フィリピン台風26号被災者緊急支援活動（街頭募金）

12月11日 インドネシア・スリランカ豪雨被災者緊急支援活動（街頭募金）

・ガールズ・サミット2025へ参加（主催：国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン）

◇実施場所：岡山コンベンションセンター ◇実施日：2025年8月5日

◇参加者：AMDA中学高校生会より2人



AMDA中学高校生会メンバーの声

ラジオ放送やオープンクラスなどを通して、自分の発言に責任を持ち、他者との関わりを深める経験をしました。

その中で、同じ志を持つ仲間と出会い、互いに刺激を受けながら成長することができました。

また、神戸を訪れて阪神・淡路大震災の歴史を学んだことで、災害の恐ろしさや支え合いの大切さについて考える機会となり、自分の視野を広げることができました。このような経験を得られた中高生会は、私にとって新たな居場所であり、仲間との交流を通して視野を広げるとともに自身の成長につながることできる大切な場所です。



ネパール医療者養成学校整備事業

2025年6月20日～11月30日

受益者数	約300人	実施場所	ネパール・ブトワール市
派遣者	整備後の確認訪問：あるちゃん・ジョシ/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAネパール支部、AMDA兵庫、AMDAマインズ、AMDA本部		

未来の医療人材を育む ～ネパール医療者養成学校の教育環境整備～

AMDAは、2025年6月から11月にかけて、ネパール・ブトワール市のAMDAネパール子ども病院に付属する医療者養成学校の整備事業を実施しました。

本事業では、AMDA ネパール支部の自己負担に加え、AMDA本部およびAMDA社会開発機構（AMDAマインズ）の協力を得て、AMDA兵庫が主体となり、3教室のプレハブ校舎増設と既存患者家族棟の学生宿舍改修を支援しました。建設状況については2025年9月にAMDA ネパールから報告を受け、2026年2月にはAMDA本部職員とAMDA神女クラブによる現地訪問を行い、最終的な建築状況と利用状況を確認しました。その結果、施設は適切に活用され、学生の学習環境向上に寄与していることを確認しました。本事業を通じて、ネパールにおける医療人材育成の強化に加え、日本とネパールの看護学生間の交流促進、さらにはAMDAネパール子ども病院の発展と財務基盤の強化につながることが期待されています。

AMDA神女クラブネパール研修

2026年2月7日～2月15日

受益者数	3人	実施場所	ネパール・ルンビニ州・プトワル市
派遣者	あるちゃん・ジョシ/調整員/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAネパール支部、ネパール子ども病院、ネパール子ども病院附属専門学校		

世界を学び、未来を育む ～ 看護学生のネパール研修 ～



AMDA神女クラブのメンバー（神戸女子大学看護学科3年生）3人が、2月7日から15日、ネパール研修に自費で参加しました。現地では、AMDAネパール支部が運営するネパール子ども病院附属専門学校を訪問し、看護学生と英語で交流しながら学校生活や文化、スポーツについて発表。さらに、ネパール子ども病院で帝王切開術の見学や外来・病棟の視察、医療従事者との意見交換を実施したほか、AMDAネパール支部および同支部が運営する歯科クリニック、トリブバン大学教育病院、女性の職業訓練所なども訪問。また、世界遺産である旧王宮広場や仏教・ヒンズー教の寺院も訪れ、ネパールの文化や習慣に直接触れる文化理解を深めました。参加した学生は「今回の研修を通して、医療や教育は制度だけでなく、経済状況や文化、生活背景と深く関わっていることを学びました。この経験を今後の学びや将来の目標につなげていきたいと考えています」と話しました。

AMDAこども食堂支援プラットフォーム

2017年12月～継続中

実施場所	岡山県内のこども食堂	受益者	岡山県内のこども食堂 85団体
------	------------	-----	--------------------

食事と交流の機会を届けるこども食堂支援

AMDAこども食堂支援プラットフォームは、子どもの貧困対策として2017年12月に設立しました。現在は、子どもから大人まで世代を超えた地域の居場所となる「こども食堂」などで、食事と社会参加の機会を提供する活動を行っています。

2025年度は、AMDAが災害備蓄として保管している缶詰340個のほか、5つの企業・団体・個人の支援者からご寄付いただいた玄米・野菜・食品や生活物資を85の岡山県内のこども食堂に提供しました。

また、岡山県倉敷市にあるこども食堂の小学生たちとプロバスケットチームとの交流プログラムが開催され、子どもたちは選手からプレー指導を受け楽しい交流の場となりました。今後は、防災教育などを通じ子どもたちの社会参加を進めていきます。



インド・ブッダガヤでの農業事業 2022年～継続中

実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
従事者	農業専従者1名、APCスタッフと地元ボランティア計3名
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	日本インド友好医療センタートラスト

収穫の恵みを地域へー農業を通じた食料・栄養支援

AMDAは地元農家の協力を得て、2022年にブッダガヤで農業事業を開始しました。今年も米や豆、野菜、香辛料を収穫し、同地で行う母子保健事業や食事支援に加え、洪水被災者への食料支援にも活用しました。さらに、近隣住民や農作業の協力者、母子保健事業を利用するお母さんにも、収穫した野菜の一部を配布しました。



4月～6月：ニンニク、コリアンダー、玉ねぎの収穫、mung豆の種まき、稲作の苗床作り

7月～9月：ゴーヤ、mung豆の収穫、田植え、アルハル豆、コリアンダー種まき、なすの植え付け、玉ねぎの苗づくり

10月～12月：稲刈り、からし菜、ほうれん草、カリフラワー、キャベツ、ビーツの種まき、コリアンダー、ほうれん草、なすの収穫、玉ねぎの苗づくり

1月～3月：玉ねぎ、にんにく、ジャガイモの苗の植え付け、コリアンダー、ほうれん草、青ネギ、大根、カリフラワー、ゴーヤ、豆、ジャガイモ、からし菜の収穫



食料支援を受けられた方の声

以前いただいた野菜は家族でおいしくいただきました。採れたてでとても新鮮でした。今回のなすや青ネギ、コリアンダーも新鮮そうで、今日は野菜を買わずに済みます。

AMDAフードプログラム（AMDAマリノ農場）

2012年4月1日～継続中

受益者数	現地農家15世帯 (常時)	実施場所	岡山県新庄村（休耕中） インドネシア南スラウェシ州マリノ村
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	現地農家15世帯（常時）、ハサヌディン大学、AMDAインドネシア支部		

持続可能な農業を学ぶ～インドネシア・マリノ農場での実地研修～

2012年、「食は命の源」の精神をモットーに始まったAMDAフードプログラムは、アジア圏における有機農業の普及に取り組んできました。岡山県新庄村で学んだインドネシア人研修生が、帰国後の2014年、故郷・南スラウェシ州マリノ村にてAMDAマリノ農場を開設。以来、有機農法による稲作と野菜作りを行っています。



2025年度は、現地ハサヌディン大学と香川大学・高知大学・愛媛大学の学生が現地に滞在し、約3週間の実地研修が行われ、AMDAマリノ農場が活動の場を提供しました。学生たちは、農家でのホームステイを通じて有機農業や地域文化を体験し、肥料作りや苗の移植、農地管理などを学びました。また棚田環境の特性や家族で支える農業の在り方、自給自足型の循環経済にも理解を深めたほか、高栄養価の赤米の生産やその商品価値にも触れ、有機農業が高度な環境マネジメントに基づくことを実感しました。

インド・ブッダガヤでの食事支援『AMDAあおぞら食堂』

2023年1月～継続中

受益者数	のべ4,870人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	日本インド友好医療センター、AMDAピースクリニック		

食事と交流を届ける～地域に根付く『AMDAあおぞら食堂』～

2023年1月より、AMDAは母子保健事業を行っているブッダガヤの住民を中心に、毎週火曜日、食事を提供しています。この地域には経済的に厳しい状況の家庭が多く、『AMDAあおぞら食堂』には、建設現場で働く方、オートリキシャー（三輪タクシー）の運転手、視覚障がいの方、車いすを利用されている方、他州から訪れた通りがかりの方、子ども、近所の方など様々な方が集まります。今では毎週のように訪れる顔なじみの方も増え、地元で根付いた活動となっています。

夏季（4月から9月）には、青唐辛子やレモン、香辛料、ひよこ豆を水で溶いた、地元で定番の「サットゥージュース」を配布し、気温が下がる11月から2月には、ダル豆のカレーとジャガイモの副菜がついた定食を提供しました。3月に入ると日中の気温が30度近くまで上昇するため、メニューを再びサットゥージュースに切り替えて提供しました。参加者に味を聞くと、グーサインをされたり、笑顔で「ボホットアチャー（大変おいしい）」と答えたりするなど、好評を得ています。



サットゥージュース

青唐辛子やレモン、香辛料、
ひよこ豆を水で溶いもの。

夏バテ防止に良いとされる地元の定番ジュース



■大学・専門学校等カリキュラム講義（50音順）

相生市看護専門学校、朝日医療大学校、岡山医療センター附属岡山看護助産学校、岡山県立大学大学院、玉野総合医療専門学校、ノートルダム清心女子大学、福山市医師会看護専門学校、美作市スポーツ医療看護専門学校

■講義・講演（実施日順）

天台宗第4地区宗務所長・職員研修会、日本青年会議所医療部会、岡山労災看護専門学校、創志学園看護学校、岡山大学歯学部、倉敷市立東陽中学校、岡山県宗教者の会、全国市町村国際文化研修所、岡山県立津山高等学校、岡山県倫理法人会、赤磐市障害者自立支援協議会、岡山県立倉敷中央高等学校、天台宗九州西教区、就実大学経営学部、早島町立図書館、世界連邦岡山県協議会、岡北中学校区人権研修講座、倉敷人権擁護委員協議会、倉敷市連島南公民館、岡山丸の内ロータリークラブ、兵庫共励会、玉野防災士の会、徳島大学医学部、倉敷市立真備東中学校、岡山市男女共同参画大学「さんかくカレッジ」、新見公立大学、岡山県美咲町立中央中学校、IPU・環太平洋大学、ノートルダム清心女子中学校・清心女子高等学校、岡山県鍼灸師会、岡山市立岡山後楽館高等学校、岡山県津山市立北陵中学校、徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校、地域連携の会～絆～、岡山県津山東高等学校、日本統合医療学会学術大会、岡山赤十字看護専門学校、岡山大学医学部、岡山市役所市民協働局市民協働部市民協働企画総務課、旭川荘厚生専門学院、岡山県教育庁「Well-beingセミナー」、岡山市立石井小学校、岡山市立江西小学校



■インターンシップ受け入れ

- ・難波 優希菜：ノートルダム清心女子大学より（2025年7月～2025年12月）

■メディア出演

- ・RSKラジオ：天神ワイド朝「AMDA・命を救うラジオ」 毎月第4週火曜日（2026年7月から第4木曜日へ変更）
- ・FMくらしき：「困った時はお互い様 月刊 AMDA通信」 毎月第3金曜日

■主催イベント

- ・ミャンマー地震被災者支援活動街頭募金（2025年4月15日）
- ・フィリピンセブ島沖地震被災者緊急支援活動街頭募金（2025年10月17日）
- ・フィリピン台風26号被災者緊急支援活動街頭募金（2025年11月18日）
- ・インドネシア・スリランカ豪雨被災者緊急支援活動街頭募金（2025年12月11日）
- ・第7回AMD A南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議（2025年10月20日）
- ・AMDA中学高校生会30周年記念同窓会（2025年12月27日）



■主な参加イベント

- ・岡山県中央メーデー 連合岡山・東部地協2025ふれあいメーデーブース出展（2025年4月26日）
- ・倉敷国際ふれあい広場展示（2025年10月19日）
- ・総社市防災訓練展示（2025年12月6日）
- ・高校生「夢育」PBLフォーラム2025展示（2025年12月25日）
- ・令和7年度益城町総合防災訓練展示（2026年1月31日）



包括連携協定調印

■国内包括連携協定調印

公益財団法人 大原芸術財団との包括連携協定終結

2025年11月19日

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）団体概要

所在地	〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3丁目31-1
設立年月日	1984年8月 国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006年 認定NPO法人に認証 2013年5月8日付
AMDAグループ 構成団体	特定非営利活動法人アムダ: AMDA AMDAインターナショナル（任意団体） 特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター アムダ兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、避難民医療支援、復興支援、医療支援、 友好病院支援、プライマリーヘルスケア、グローバル人材育成、 フードプログラム
2025年度 活動国と地域	日本、ネパール、インドネシア、モンゴル、インド、ハイチ、 ルワンダ、フィリピン、カンボジア、ウクライナ、ハンガリー、 アフガニスタン、ミャンマー、パキスタン、スリランカ
国内活動	緊急医療支援、復興支援、こども食堂支援、 出張講演、大学講義受託、活動報告会、セミナー開催、 AMDA中学高校生会、イベント参加、 AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム準備・会議 など
AMDA支部 AMDAクラブ スタッフ 会員数 ERネットワーク登録数	神奈川支部 高知、福山、竹原、神女（神戸女子大学）各クラブ 常勤 9人 非常勤 4人 派遣 1人 507人 706人

2026年5月31日現在

特定非営利活動法人 アムダ（AMDA）役員

理事長	佐藤 拓史	医師	モンゴル国立医科大学客員教授
副理事長	難波 妙		特定非営利活動法人アムダ
理事	秋山 仁		東京理科大学栄誉教授
理事	沖 陽子		岡山県立大学客員教授
理事	頼藤 貴志	医師	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野教授
監事	広田 真美	医師	医療法人和仁会 福岡和仁会病院

2026年5月31日現在
(理事名 五十音順)

会計報告

貸借対照表

2026年3月31日現在(単位:円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	385,370,064	未払金	4,962,805
棚卸資産	3,216,468	前受金	111,000
前払金	122,000	預り金	81,090
前払費用	427,006	流動負債計	5,154,895
仮払金	3,392,589		
立替金	63,912		
流動資産計	392,592,039	負債合計	5,154,895
【固定資産】		【正味財産】	
有形固定資産	691,022	前期繰越正味財産	550,594,384
無形固定資産	54,167	当期正味財産増減額	△ 41,481,839
投資その他の資産	120,930,212	正味財産計	509,112,545
固定資産計	121,675,401		
		正味財産合計	509,112,545
資産合計	514,267,440	負債及び正味財産合計	514,267,440

活動計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで(単位:円)

【経常収益】			
受取会費	5,076,000		
受取寄附金	69,390,653		
受取助成金等	3,045,287		
事業収益	603,410		
その他収益	4,103,984		
経常収益計		82,219,334	
【経常費用】			
【事業費】			
人件費	28,141,200		
その他経費	64,316,013		
事業費計		92,457,213	
【管理費】			
人件費	18,470,584		
その他経費	13,384,491		
管理費計		31,855,075	
経常費用計		124,312,288	
当期経常増減額		△ 42,092,954	
【経常外収益】			
固定資産売却益	611,118		
経常外収益計		611,118	
【経常外費用】			
固定資産除・売却損	3		
経常外費用計		3	
税引前当期正味財産増減額		△ 41,481,839	
当期正味財産増減額		△ 41,481,839	
前期繰越正味財産額		550,594,384	
次期繰越正味財産額		509,112,545	



皆さまのご支援により、2025年度も世界各地で人道支援活動を継続することができました。
心より感謝申し上げます。

詳しい活動報告については
AMDAホームページ、各種SNSに掲載しています



🌐 <https://amda.or.jp/>

AMDA

国連経済社会理事会総合協議資格NGO | 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
📍 700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3-31-1 ☎ 086-252-7700 ✉ member@amda.or.jp